一部画像を加工・修正している箇所があります。

桜ケ丘ハイツ自警団（岐阜県）

皆様こんにちは。最後の方かと思っておりましたら、いきなり一番バッターということで、少し滑舌が悪いかもしれませんが、ご容赦お願いいたします。

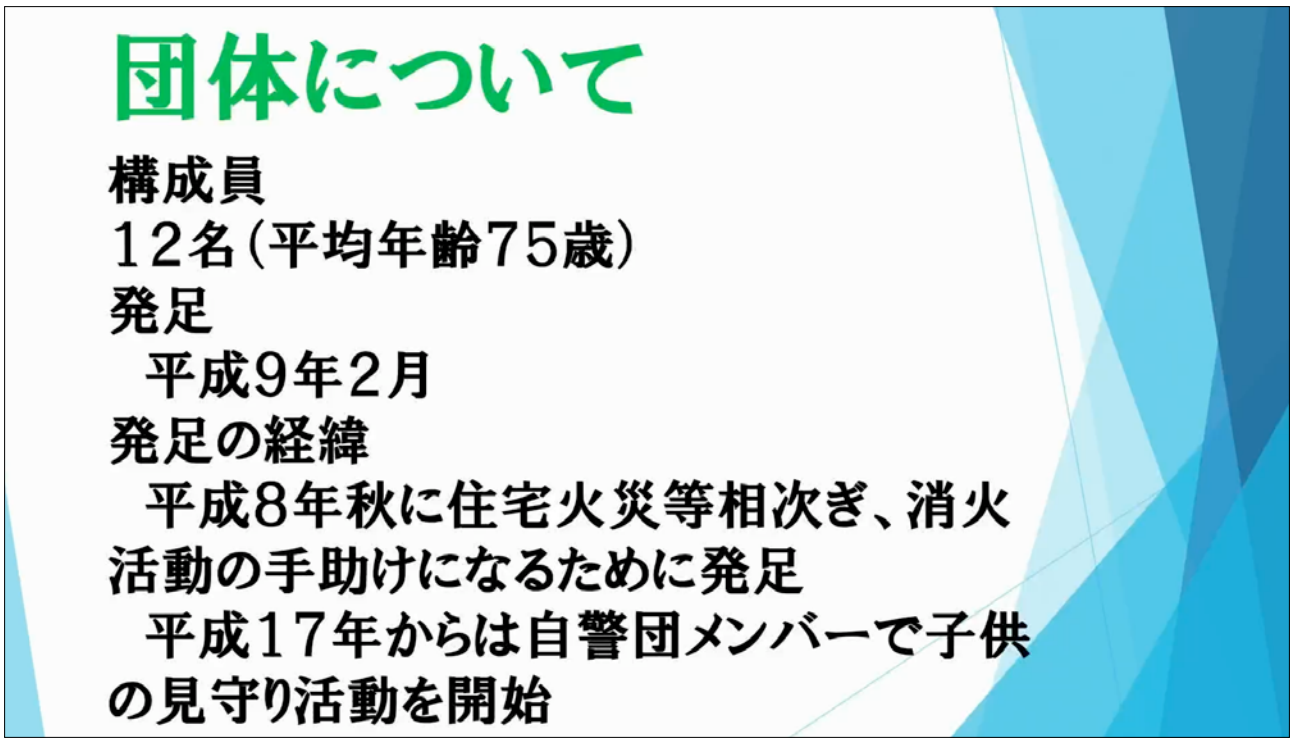
私たちが活動する岐阜県可児市は、岐阜県中南部に位置し、北部は概ね平野で、南部は岐阜県下でも有数な工業団地です。住宅地やゴルフ場が点在し、また木曽川や可児川が街を潤す、自然豊かな場所で快適な住環境を構成しています。なお、全国に広まった登下校中に助けを求めることができる場所「子ども 110 番の家」が最初に設置されたのが、私たちの可児市となります。

団体は可児市東部に位置する閑静な住宅街である桜ケ丘ハイツを中心に活動を展開し、現在では防犯パトロールを可児市東部全域まで拡大しております。

桜ケ丘ハイツは、桜ケ丘、皐ケ丘、桂ケ丘の三自治会で構成され、可児市の人口の約 1 割、1 万人が生活しています。街並みは、自然石積みの住宅外構、芝生舗装の広い歩道、曲線道路など、景観を重視した街並みになっています。なお、桂ケ丘地区は、平成 23 年度、一般財団法人住宅生産振興財団主催の第 7 回住まいのまちなみコンクールにて、東海地区では初の「住まいのまちなみ優秀賞」を受賞しました。

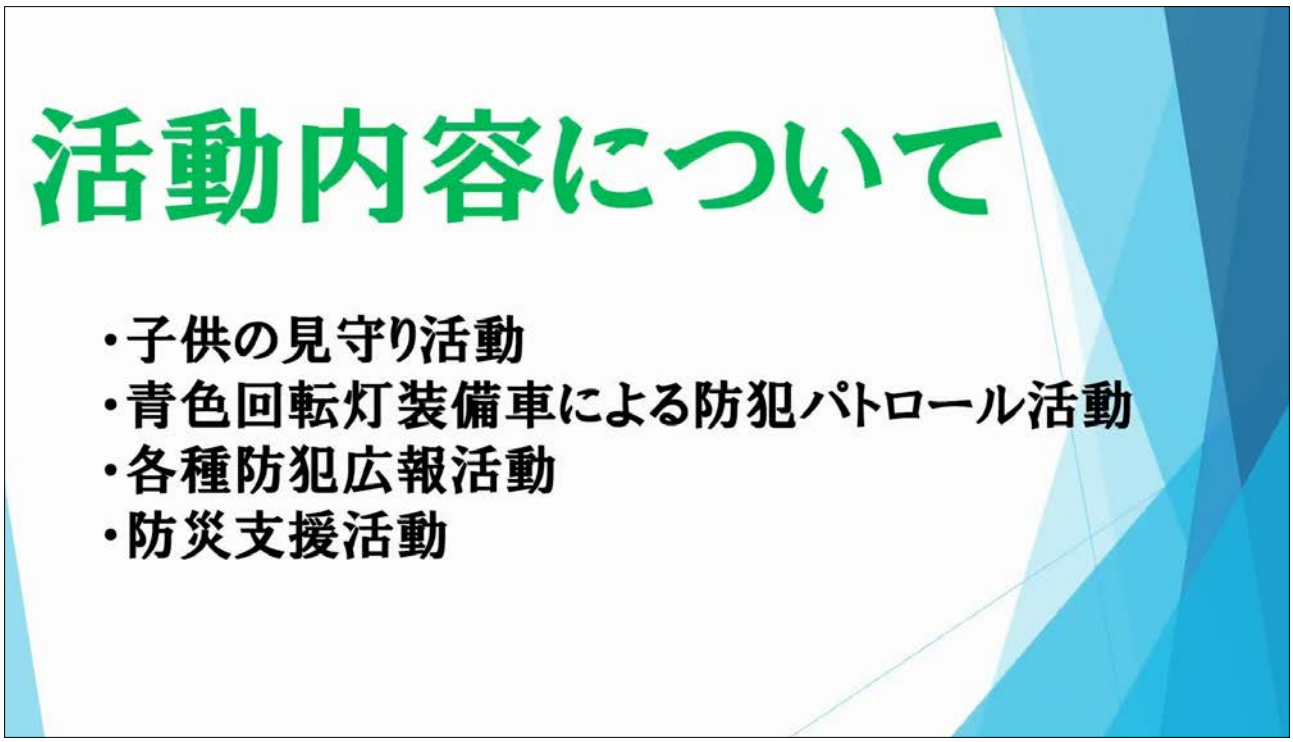
防犯カメラについては、自治会総会などで反対の意見がある中、私たち自警団として設置を求めるなど、機会があるたびに申請してきた結果、警察の防犯カメラ設置促進補助金などを活用し、桜ケ丘自治会３台、皐ケ丘自治会３台、桂ケ丘自治会２台が設置されました。

先ほどもご紹介しました「子ども 110 番の家」は、団体としては直接関わっていませんが、可児市で平成８年に全国に先駆けて発足し、現在までに県内に１万７千、全国で 140 万カ所が設置されてきました。子どもたちに安心感を与えることと、犯罪者の心に訴えるような効果があり、防犯にも大きく寄与していることが想定されます。



このような閑静な住宅地ですが、平成８年の秋に台風被害が多くあり、また商店街では店舗火災が発生、冬には住宅火災も相次ぎました。このような中、火災発生時には、消防車や消防団の誘導などスムーズな消火活動の手助けをすべきではないか、台風災害時には、商工会議所桜ケ丘支部の会員は、それぞれの業種の特性、例えば食堂経営者であれば災害時の炊き出し、建設業者であれば建物の応急処置、布団屋さんであれば被災者への布団貸し出しなどを活かして、いざという時に住民の皆様の役に立ち、頼りになる存在を目指すべきと考え、商工会議所桜ケ丘支部が中心となって自主防災組織「桜ケ丘自警団」が平成９年２月に結成されました。

そして、平成 17 年３月には自警団メンバーの地域安全指導員を中心に「桜ケ丘ハイツ安全パトロール隊」を組織し、子どもの見守り活動の取り組みを開始しました。さらに同年４月からは、岐阜県中濃圏域で初めての青色回転灯装備車両によるパトロール活動も行い、「わが町は自分で守る」をスローガンに、災害のない明るい住みよいまちづくりに取り組んでいます。



活動内容は大きく分けて四つありますので、順番に説明させていただきます。

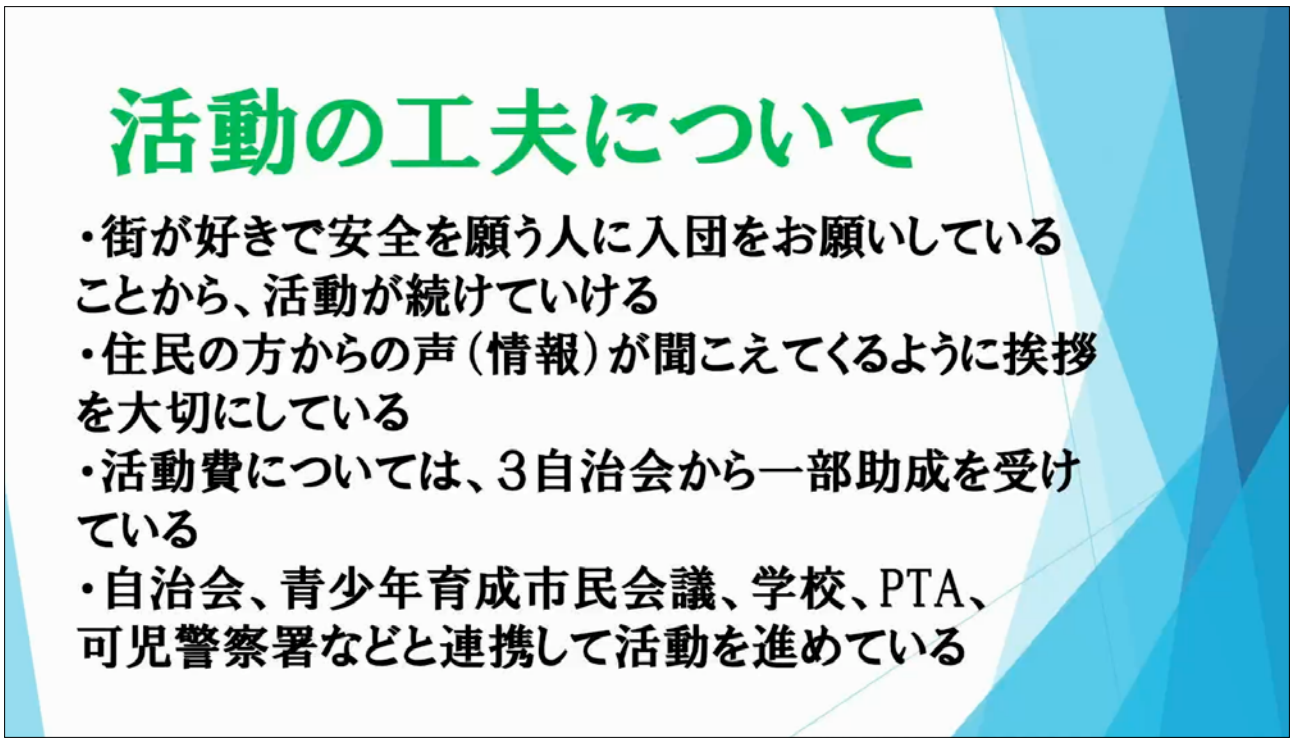
一つ目は、小学生の登下校時に交通安全協会、PTA、青少年育成市民会議と連携して、主要交差点で立哨や方面別に同行するなどの活動です。団体の趣旨としましても、皆様のお手元のプログラムにあるように、子どもの未来を守り育てるため、特に子どもの見守り活動について力を入れています。

二つ目は、青色回転灯装備車による防犯パトロールです。現在、青色回転灯装備車は３台で活動をしています。夜間パトロールを毎月３回実施しています。以前は毎週２回実施していましたが、隊員の減少により実施回数も減ってしまいました。ほぼ毎日、小学校の登下校時間に合わせてパトロールを実施しており、これも見守り活動の一環です。また、高齢者などの行方不明者が出た時には、捜索に協力しております。ハイツ内で火災などの災害が発生したときには、消防車両が入りやすいよう誘導することもあります。

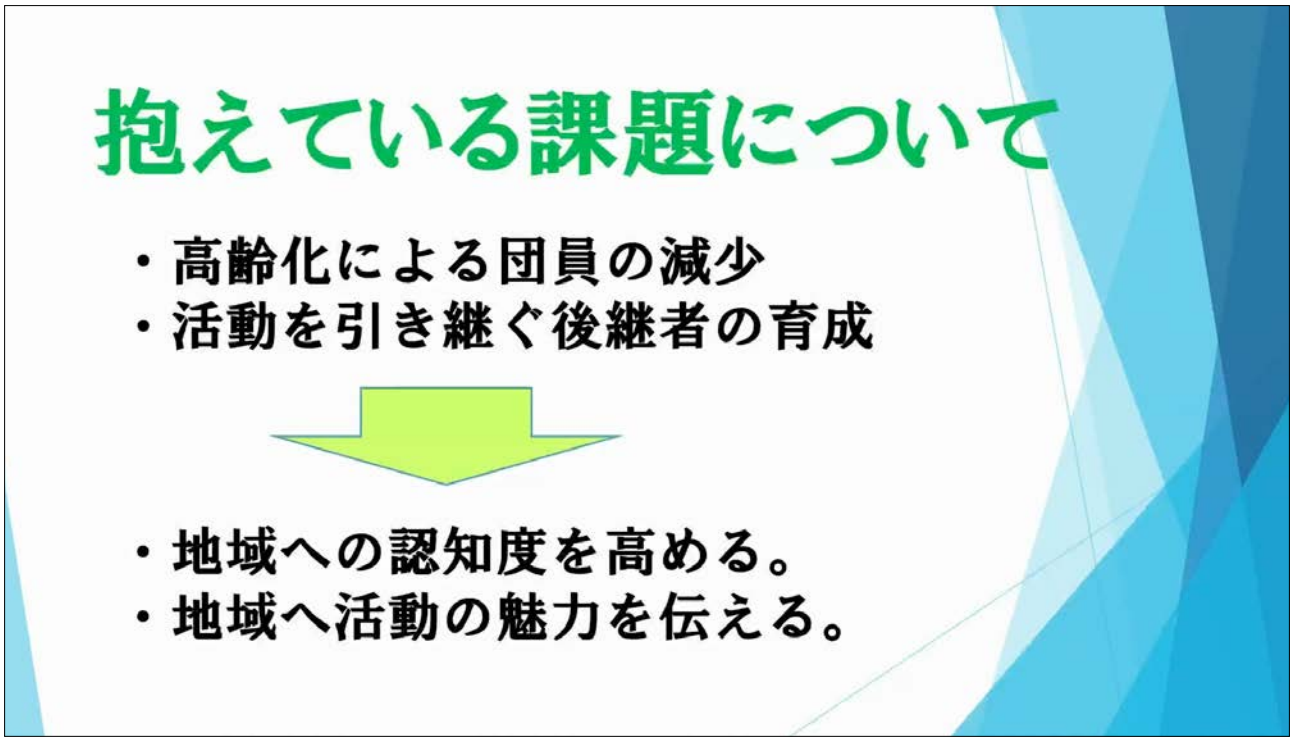
三つ目は、警察署や青少年育成市民会議と協力し、年に１回、年金支給日に地区の大型スーパー、郵便局、農協、信用金庫の４カ所で、詐欺注意のチラシ配布と注意喚起の広報啓発活動を行っています。

コロナ禍以前は年末夜警を青少年育成市民会議や自治会役員などの協力を得て、拍子木を打ち鳴らし「火の用心」と叫んでハイツ内を回っていましたが、現在は隊員全員で青色回転灯装備車を連ねて町内をパトロールする方法で、年末の 12 月 28 日、29 日の 2 日間実施しています。

また、毎年 9 月の防災の日には、自治会主催で全住民対象の避難訓練が行われます。この時に主催者のサポートをします。地元消防団の消火器を使った消火訓練のサポートから、自警団による、避難場所の公園に隣接しているため池の水を活用した可変ポンプでの放水訓練まで行っています。毎年自治会役員は全員入れ替わるので、新しい役員に消火栓の使用方法の講習も行います。また、地区に複数の貯水槽がありますが、しっかりと貯水されているかを点検することも講習しています。



活動の工夫については、街が好きでの安全を願う人に入団をお願いしていることから、活動が続けていけるよう、住民の方からの声や情報が聞こえてくるような挨拶を大切にしています。活動費については、先ほど申し上げました３自治会から一部助成を受けております。また、自治会、青少年育成市民会議、学校 PTA、警察署などと連携して活動を進めています。



このように工夫しながら活動をしていますが、自警団に限らず多くのボランティア団体の悩みは後継者問題があると思います。「わがまちは自分で守る」ためには、何としても存続をしていかなければなりません。そのためには、学校や地域イベントで自警団の活動を若い世代に知ってもらい、地域の認知度を高めること、そして団員の体験談を活用し、活動の意義や達成感など活

動の魅力を伝えることが必要です。これを達成する方法の一つとして、地区センターや自治会の協力のもと、全戸配布される広報誌への団員募集の記載依頼や、団体の活動費でチラシを発行するなどの活動が考えられます。また、今までの発表にもあるように、高齢化の実態などを加味し、団員の負担を軽減するなど、時代に合わせて活動も変化させています。

終わりに、全国の防犯ボランティア団体の皆様へ一言申し上げます。後継者不足という共通の課題に直面しているかもしれません。しかし、皆様が築いてきた活動は地域に根付いた大切なものです。伝え方を工夫し、活動の魅力をより多くの人に感じてもらうことで、次世代へと引き継いでいくことが可能だと信じています。「自分たちがいなければ、わがまちの安全安心は続かないかもしれない」。その誇りと使命を持って、皆で地域を守り続けていきましょう。私たちの活動が、これからも多くの人々の安全安心につながることを願っております。

最後に、「みんなでつくろう 安心の輪」です。ご清聴ありがとうございました。

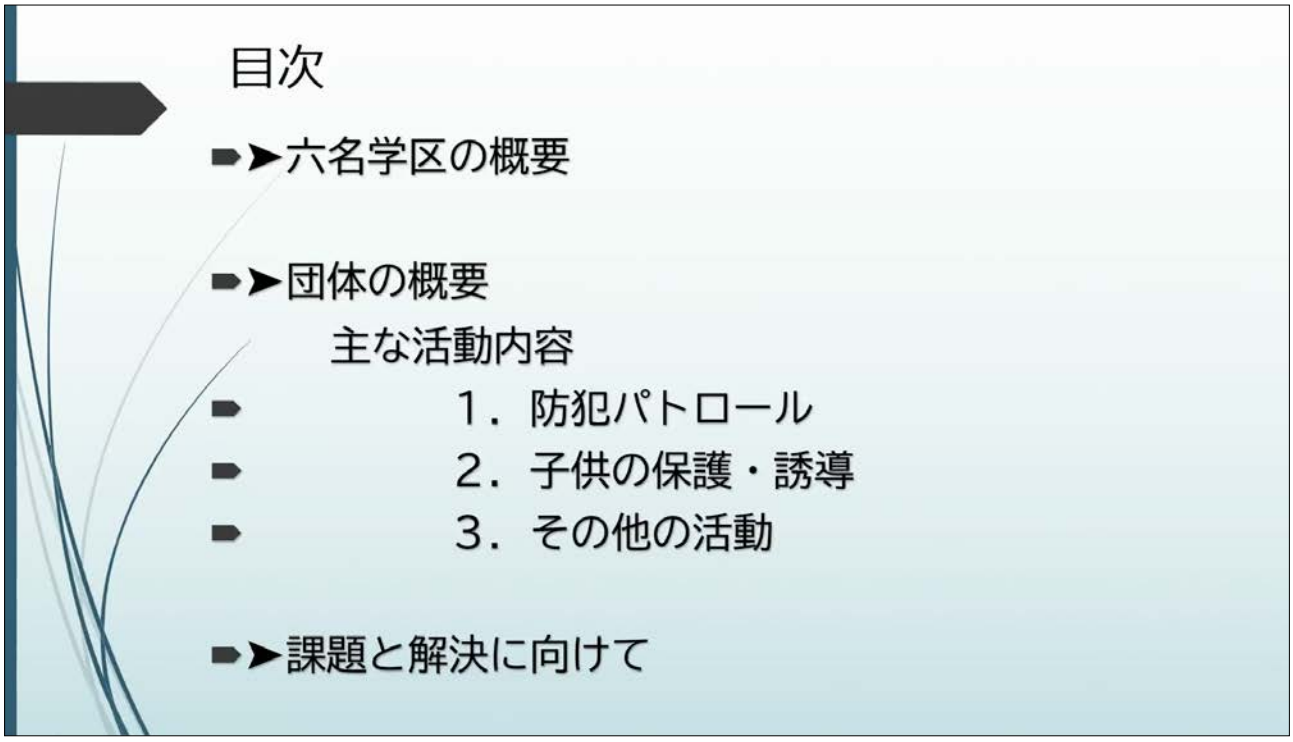
■ 講　評

【北陸大学 山本 啓一 先生】

岐阜の桜ケ丘ハイツ自警団の皆さんは、「無理のない活動」ということをおっしゃっていて、それが長く続けられた秘訣なのかなと感じました。もちろんその背後には後継者不足という課題もありますけれども、パトロールの内容も広く、行方不明者の捜索などもされており、息長く活動されているのが特徴だなというふうに思います。

六名学区防災防犯協会連合会（愛知県）

最初に、六名（むつな）学区の概要についてご説明します。全部で 24 の町内会で構成し、市内で三番目の規模のある学校区でございます。



名古屋鉄道東岡崎駅と JR 岡崎駅の中間に位置し、真ん中を国道 248 号線が走り、西側を愛知環状鉄道が走り、六名駅があります。国道 1 号線には直近で 200m の距離にあります。文教的なものでは、学区内の小学校・中学校以外に愛知教育大学附属中学校があります。また、学区内に

岡崎市体育館、岡崎市美術館があり、昨年の 11 月末までは岡崎警察署がありましたが、12 月に南の方へ新築移転しました。学区の境界で、道路の向かい側には名古屋地方裁判所岡崎支部および国立分子科学研究所が位置しています。

団体の概要ですが、正式の発足は昭和 23 年 4 月 1 日です。岡崎市が全町内会に町防災防犯協会を、全学区に学区防災防犯協会連合会を設立したのが初めでございます。当初は火災予防の啓発が中心でしたが、阪神・淡路大震災以降は防災活動、それから犯罪件数がピークになった頃に防犯活動が重点的に加わって現在に至っています。

構成員は約 650 人で、平均年齢は若い PTA や子供会の人たちも加わり 65 歳となっていますが、役員は皆 70 歳に近く、少し高齢化しています。組織としては、特に子どもの見守りを中心とした「六名学区安全パトロール隊」、これは PTA や子供会の人たちも加わった組織で、朝夕の見守りを行っています。それから通称「青パト」と称します「六名学区防犯パトロール隊」があり、各町内会にそれぞれの町の防犯パトロール隊が結成されています。「学区住民を犯罪や交通事故から守り、安全安心なまちを目指す」をスローガンにして活動しています。

表彰歴

- 平成23年５月26日
- 防犯功労団体表彰（愛知県警察本部・愛知県防犯協会連合会会長連名）
- 平成28年５月30日
- 防犯功労団体表彰（愛知県知事）
- 令和２年９月30日
- 防犯功労団体表彰（中部管区警察局長・中部管区防犯協会連合会会長連名）
- 令和３年９月30日
- 功労ボランティア団体表彰（全国防犯協会連合会会長）
- 令和５年９月28日
- 防犯功労団体表彰（警察庁長官・全国防犯協会連合会会長連名）

表彰については、最近のものを挙げますと、令和２年９月に中部管区警察局長・中部防犯協会連絡協議会長連名による防犯功労団体表彰、令和３年９月に全国防犯協会連合会長による防犯ボランティア団体の表彰、令和５年９月に警察庁長官・全国防犯協会連絡協議会長連名による防犯功労団体表彰を受けています。

主な活動内容

○全町内会による徒歩防犯パトロール

全24町内会にパトロール隊を結成
年間延べ約2,880人が参加

主な活動内容ですが、先ほど申し上げましたように、各町の防犯パトロール隊による徒歩での防犯パトロールを原則月１回以上実施し、時には警察と共に合同パトロールを実施することもあります。これは警察との合同パトロールの際の写真で、学区を管轄する二つの交番の警察官も参加することがあります。

次は学区の防犯パトロールの中の、夜間防犯パトロール実施の風景でございます。中には、隣の町と共同して隣の町までパトロールし、今度は相手側が自分の方にもパトロールするという形で、実質的に月２回以上のパトロールという効果を生んでいるところもあります。

青パトによるパトロールですが、不審者情報や過去に事案が発生したところ、学内にある 13 の児童公園、それから六名駅、大型商業施設などを、曜日や時間は不規則に実施しています。概ね週２回、月８回を目途に行いますが、年末年始、春休み、５月の連休、盆休み期間はできる限りパトロールを実施しています。１回のパトロール時間は約１時間、走行距離は約 11 キロで、令和６年度は年間 89 回実施しています。

子どもの保護・誘導ということで、毎朝の登校時、各町の通学路の交差点や横断歩道に、学区の安全パトロール隊 60 人から 70 人程度が立哨し、誘導など交通安全の見守りを行っています。

また、月１回の一斉下校時は各町より 50 人ほどが学校に出向き、通学団に付き添いながら下校しています。こちらは事業所など人目のつきにくい通学路や交差点などに、「子どもや高齢者を交通事故から守る」「みんなで作ろう 安心な街」などの横断幕を独自に作って設置しております。PTA で使用している「六名 110 番の家」のプレートは、警察からのプレートは小さくて分かりにくいため、独自にのぼり旗を制作して通学路 60 カ所に設置し、子どもが一目で分かるようにしております。

小学校において、連れ去り事案などを想定した場面などをビデオで撮影し、教室のテレビに映して意見を述べ合ったり、どうしたらよいかわかりやすく説明する、こうした出前授業やビデオメッセージを放映してもらっています。右側は地域ごとに集まる機会を利用して、防災や防犯、最近は特に詐欺防止について、詐欺の手口などの情報提供や注意すべきことなどを話し合う懇談会も行っております。

学区内に 13 カ所ある児童公園の入り口 2 カ所に、「知らない人についていかない」「一人で遊ばない、みんなと一緒」という立て看板を制作し、市の許可を得て設置しています。これは一学期終業式に時間をいただき、「子ども 110 番の家」ののぼり旗とともに示し、夏休みに向けて注意してほしいことを話したものです。

防犯診断士、警察署、市の交通担当者や公園担当者を招き、住民も参加して防犯診断をし、交通を含め危険な箇所のチェックを行っています。その診断報告書が出た直後、市がすぐにガードレールを設置したものです。また、指摘された公園の生け垣は年度内に刈り込まれ、防犯カメラも設置されたところがあります。その後、岡崎市では 3 年かけて 1,050 台の防犯カメラを設置しました。六名学区にはそのうち 51 台が設置されています。私も市内の 556 の町内会で組織する岡崎市総代会連絡協議会の会長に就任し、その前の副会長時代から市当局に設置を強く要望してきました。おかげで 1,050 台という予算措置がなされ、3 年間で設置されました。

詐欺防止機能付き電話機の設置を啓発するため、高齢者宅を訪問し、岡崎市の補助制度にプラスして、学区でさらに補助することを各町内会の役員が説明して回り、事前にこの制度を回覧で告知しております。補助金の制度については、また後で紹介いたします。右側は補助錠の設置について、学区で特別に補助して実施したものです。当初、ホームセンターで当時 1 個約 1,000 円という価格がネックで、一世帯当たり 4 ～ 5,000 円もかかるため、負担が多くてなかなか進まない状況でした。そこで、一世帯当たり 1,000 円ですが、1 個 200 円で提供することとし、学区と町で負担することにして、これを回覧で事前告知しました。役員が説明のために訪問して 1,200 個を超える希望があり、指導しながら設置しました。

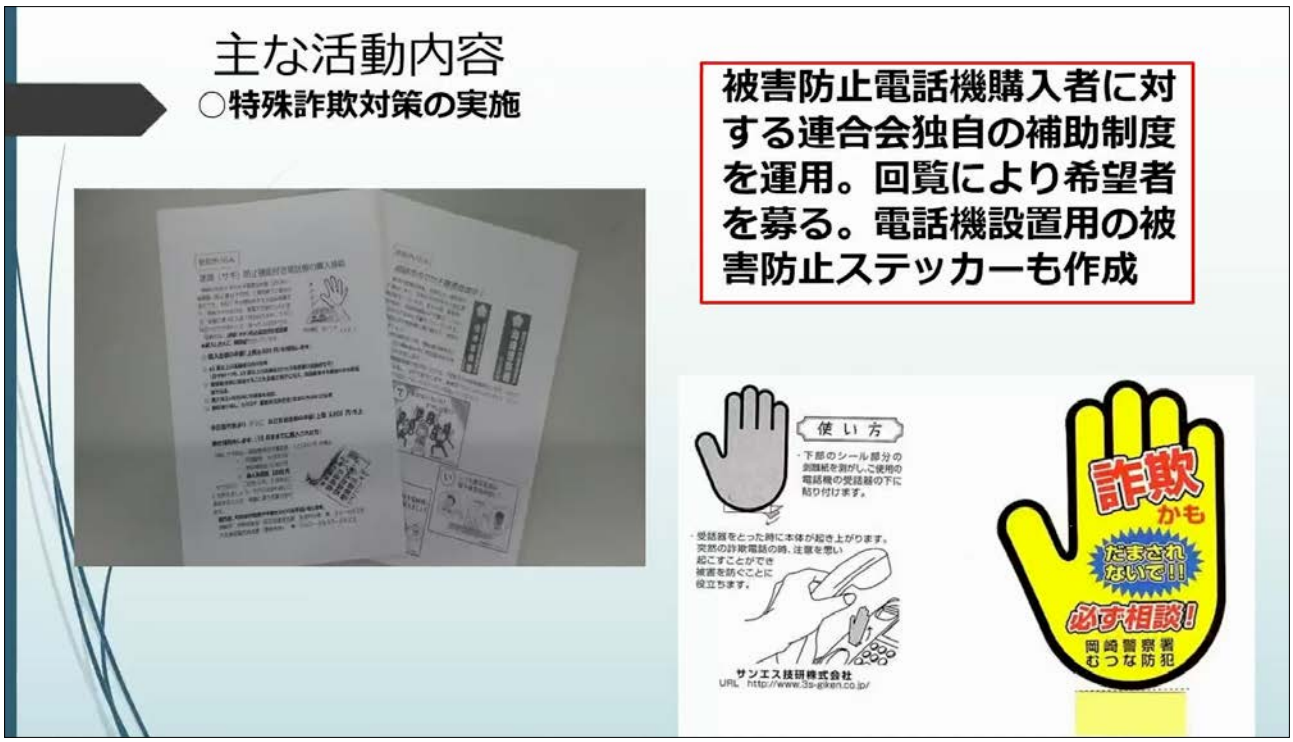
当連合会はコロナ禍を除き、毎年防災訓練を実施しており、住民 700 人から 800 人程度が参加して毎年テーマを設けて行っています。例えば、異なる小型の家具模型 2 個を特別に作り、これに家具転倒防止具を取り付け、資料などを明示し、分かりやすく展示したり、通電火災を防ぐ市販の感震ブレーカー各種サンプルを取り付けた模型も作りました。非常に関心が高く効果がありました。現在、この家具模型は岡崎市役所ロビーの防災コーナーに展示収蔵されています。

右側は国際交流協会や赤十字奉仕団とコラボし、外国人のみを対象とした避難所訓練を昼間と夜間の 2 回実施しました。避難所での表示のあり方など、外国人ならではの要望も多くあり、すぐ市当局に要望し改善を図りました。

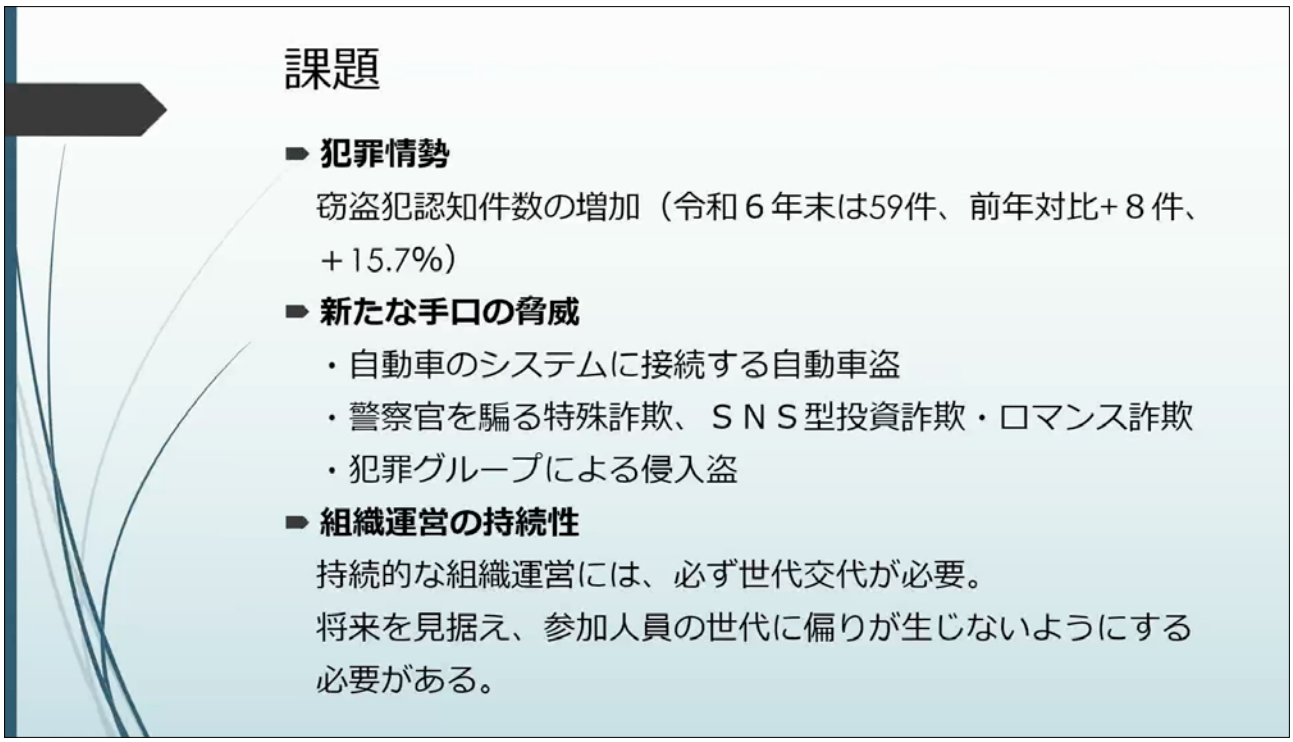
また、NPO 法人などとコラボして、乳幼児や妊婦さん、その家族のみに特化した訓練なども実施しており、今後も理解しやすいテーマを決めた訓練を実施していく予定であります。

学区内の老人クラブとか女性の会、健康体操クラブのさまざまな会合にできるだけ顔を出し、最近、特に詐欺などの犯罪に関する新しい手口などの情報を発信しました。情報や対処の仕方、心構えなどを機会あるごとに話をしております。また、右は愛知県警察本部の寸劇チーム「のぞみ」を何度もお願いして、高齢者の集まる会合で交通関連や、特に詐欺被害防止についての寸劇を通して、わかりやすく講話をしてもらっています。

学区内にある愛知環状鉄道の駅は、自転車盗の多い学区となっており、駐輪場で無施錠の自転車に六名学区独自の防犯タグを取り付けたり、自転車盗難防止ののぼりを作り、駅や商業施設の駐輪場、マンションなどの集合住宅の駐輪場などに60本設置し、青パト巡回目標の一つとしています。

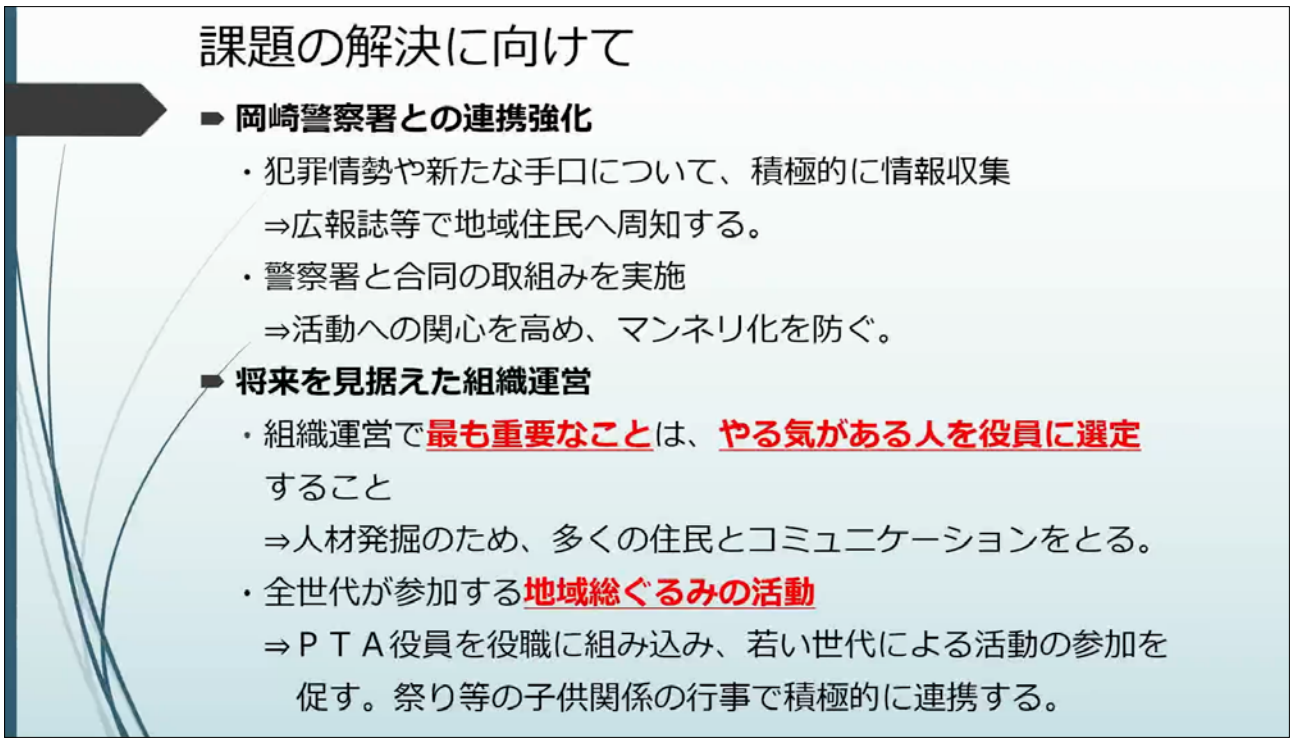


詐欺対策として、防犯回覧を独自に制作して学区内に回覧します。内容は、詐欺被害にあった、または未然に防ぐことができた詐欺の手口など、新聞記事や写真、イラストなども入れて見やすく分かりやすいものを作成しています。それと、詐欺防止電話機の購入補助についてです。市の補助金制度がありますが、例えば12,000円の機能付き電話機を購入した場合、市が半額の6,000円を補助し、さらに学区が自己負担分の残り6,000円の半額3,000円を補助することで、実質電話機を3,000円で購入できるものとしています。1回目の学区補助金で21台の利用があり、現在第2回目の補助を実施中です。また、電話機に被害防止を喚起する起き上がりステッカーを作り、全戸に配布しております。



令和６年の愛知県警察管内で、岡崎市は詐欺被害２億６千万円に及ぶ被害額がともに県下ワースト２位でありましたが、当六名学区では被害認知件数はゼロであったとみています。

犯罪状況については市内でも大規模の学区であり、犯罪発生件数も多いですが、ピーク時の20% 以下に今なっています。しかし、駅や大型商業施設もあり、自転車盗や万引きなどの窃盗は高止まりしています。今年に入り、岡崎市ではキャンインベーダーを使用した自動車盗が急増しており、また警察官をかたる特殊詐欺、新型投資詐欺など、新たな手口の脅威に直面しており、今後も継続して注意喚起を呼びかけていくつもりです。組織を持続的に運営するには、やはりリーダーの育成とスムーズな世代交代が必要と思っています。



その問題解決に向けて、岡崎警察署との連携を密にし、犯罪情勢や新たな手口について積極的に情報を発信し、回覧や広報などで住民に周知することや、警察署との合同の取り組みをすることによって、活動への関心を高め、マンネリを防ぐことに努めてまいります。今までは学区内に警察署があり、いつでもすぐに伺って指導を受けられたことは非常に幸いでありました。

将来を見据えた組織運営では、最も重要なことはやる気のある人、リーダーシップが取れる人が必要で、そういう人は自ら講習会に参加したり、防災防犯に関する知識などスキルアップを自らすることができると思っていますので、そうした人材の発掘や育成が重要になってきます。PTA、子供会など若い世代の活動参加を促しながら、地域ぐるみの活動が必要で、これが地域力となって防災力、防犯力となっていくと思います。

当協会ではいろいろなものを制作してきましたが、費用は県や市の補助金制度、外郭団体の補助金制度を調べ、これは可能だと思うものは企画書を作り、応募して利用してきました。

私が連合会長になって 18 年になりますが、その最初からずっとこれに携わってきまして、来年あたりから次の人にバトンタッチしようと思っておりますので、このまま持続していけたらというふうに思っています。今日はどうもありがとうございました。

■講　評

【北陸大学 山本 啓一 先生】

六名学区も、やはり長く活動されているということですが、例えば隣町と一緒にパトロールをしているとか、街の防犯診断とか、なかなか良い活動をされているなと思いました。

そして、個別訪問をされているんですよね。電話機の購入補助や防犯診断などで、個別訪問ができるというのは、今の時代なかなか難しいではないですか。それができるということ自体、長く活動されているからこそですし、今の時代、この個別訪問というのは実は大事なんじゃないかと思うんです。特に高齢者の詐欺防止ということを考えていくと、どうしても詐欺に遭う方は、周りの方と繋がっていなかったり、地域に相談できる人がいなかったり、そういった方が結構含まれていると聞いたことがあります。そう考えると、いくら啓発活動をしても、そういった人のところには届いていかないという問題がありまして、こういった長く活動されている団体さんが個別に訪問していく、そして「こんな手口の詐欺がありましたよ」と伝えていく。電話がかかってきてもすぐに出るのはまずいんですよ、といったことを伝えていくことは大事ですし、地域の防犯ボランティアの方々がそういうこともできるんだなということを改めて気づかされました。

また、外国人とのコミュニケーションを取られているというのも非常に素晴らしいと思います。やはり今、いろいろな国の方が増えていますよね。定住されている方もそうですけど、技能実習生とか留学生とか、増えていっています。こういった方々にどう地域に溶け込んでもらうか、地域のルールを守ってもらうか、地域のことを知ってもらうか、逆に地域の人たちが外国人のことを知ってもらうかというのは非常に大事なポイントで、そこをこの防犯ボランティアの方々が入り込んでいくというのは、とても大事な取り組みだなというふうに思いました。これからも新しい取り組みを引き継いでくれるような若い人が出てくるといいなと思いました。

七和地区社会福祉協議会（三重県）

七和地区社会福祉協議会

- 活動地域
- 団体の概要
- 青パト導入の経緯
- 活動内容
- 課題

こんにちは。七和地区社会福祉協議会です。よろしくお願いします。

まず、社会福祉協議会の原資は、赤い羽根共同募金からの分配金で行われております。三重県桑名市は愛知県に隣接し三重県最北部一番にあります。桑名駅から名古屋駅まで特急で 17 分です。桑名といえば皆さんご存知かもしれませんが、ハマグリがとても美味しいです。そして、日本一やかましい「石取祭（いしどりまつり）」もあります。もう一つは、長島スパーランドで、今頃はジャンボ海水プールがたくさんの人で賑わっていると思います。そういった場所から真逆の西の果てに、七和地区がございます。それでは、活動地域・団体の概要、青パト導入の経緯、活動内容、課題などをお伝えさせていただきます。

三重県桑名市西部に位置

- 大型商業センター
- 東西に走る国道421　県道124はグルメ街道
- 七和小学校　桑名工業　津田学園　正和中学校
- トヨタ居住推薦地区

活動地域は七和小学校区を中心に、旧来の住宅地と新興住宅地が混在していて、商業施設としてドン・キホーテ、サンシティーロピア、サンシパーク、お宝市番館などがございます。実は、桑名市の青少年の補導件数で、私たちの地区はこのベスト 3 に入っています。そして、東西に走る国道 421 号と県道 142 号沿いは「グルメ通り」と言われまして、家族で食事ができる大型店がたくさん

ございます。大変住みやすい土地で、トヨタなどの居住推薦地区になっております。七和小学校の生徒数は、昨日お伺いしましたら 298 名です。そして、桑名工業高校、津田学園、隣町には正和中学校などがございます。

構成員

- 七和地区社会福祉協議会
- 778見守り隊
- 各自治会　他団体
- PTA
- 有志

当団体は、七和地区社会福祉協議会、七和子ども見守り隊、自治会、各種団体、PTA 有志を中心として平成 5 年に発足した防犯ボランティア団体でございます。七和子ども見守り隊は登校時に付き添いをされており、構成員は 16 名で、父親、兄、祖父母、地域の方々で行っていただいております。主に子どもの見守り活動を行っています。令和 5 年 10 月から青色回転灯をつけた青パトで週に 3 回活動を行っています。青パトでの活動内容は、週に 3 回、月･水･金に地区社協のメンバーと各種団体有志と協力して、主に小学生の下校時にパトロールを行っています。

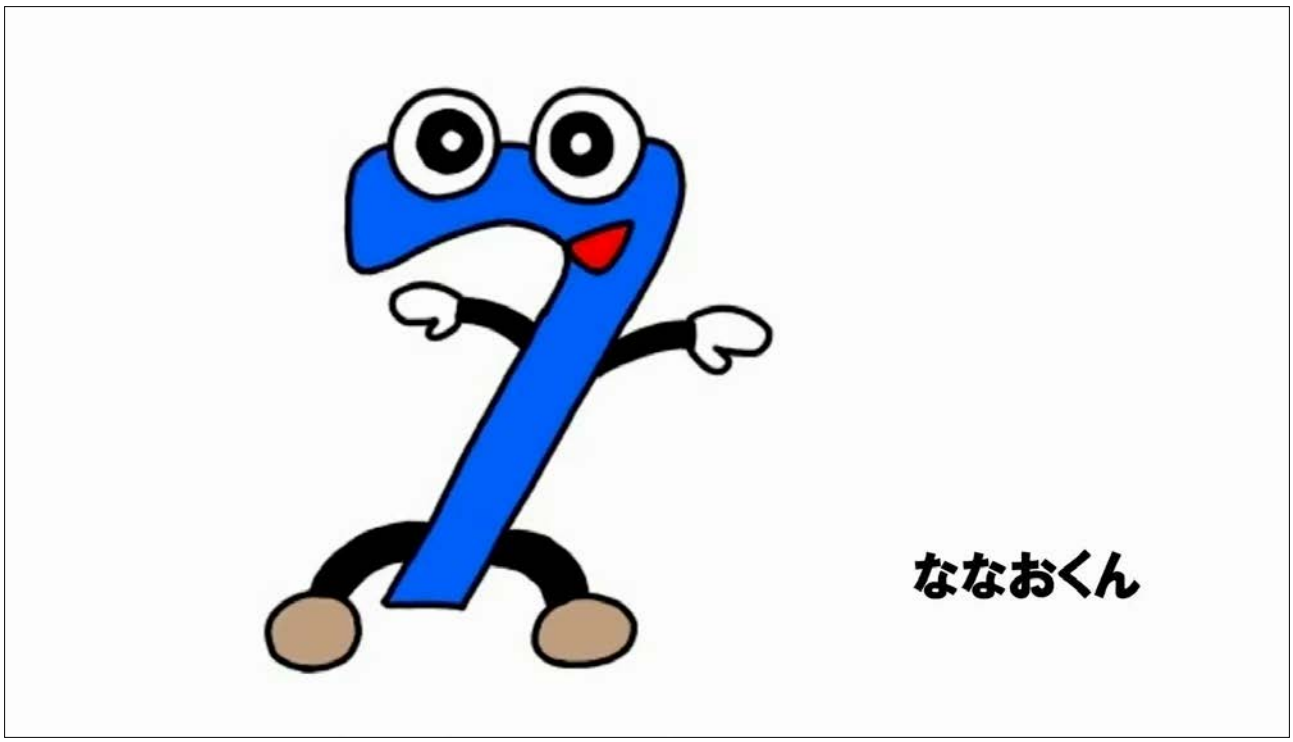
ここで、私の自己紹介をさせていただきます。私の仕事は歯科技工士です。就職して 25 歳で開業しまして、就職してから 15 年ぐらいは名古屋で暮らし、遊びました。徹夜そして土日は仕事で、地域のことはすべて家内にお願いしていました。下の子が小学校に入学するときに、クライアントも名古屋がほとんどでしたが、私の仕事は立地条件は必要なく、交通の便も桑名から名古屋は近いものですから、自分の生まれた実家で子どもを育てたいという思いで桑名へ来ました。そして来ると、まずは子ども会、PTA、農家組合、自治会、連合自治会、社会福祉協議会、そして今はまちづくり協議会と職とは全く関係のないのに参加させていただきました。参加させていただくと、いろんな方とお会いし、たくさんの方に助けていただき、皆さんが喜んでいただけることばかり考えて生活しています。

青パトの導入は、私が年末交通安全出陣式に参加させていただいたときに、新興の住宅地には青パトが導入されているのに、この旧来の町にはないのはどうしてかな？と思ったのがきっかけです。まちづくり協議会の会議で「青パトを導入したらどうか」と提案させていただきました。そしたら、「コストもかかるし、効果があるのか」ということで、保守的な考え方をお持ちの方がかなり見えました。

それならばと、自分の軽トラを青パトにして地区社協で活動しようと考えました。せっかくなのでパトカーのようにしようと知り合いの車屋さんにお願いしたところ、いろいろ話していたら、その代表の方が「私が車の提供をさせていただきます」とご賛同いただきました。輸入車を扱っているので、自社のイメージから輸入車で青パトを作ります、燃料費の負担だけお願いしますと。大変ありがたいです。

車ができた時に見せていただいたら､BMW でドイツのパトカー仕様。ちなみにドイツのパトカーは青色回転灯なんです。自社のロゴと相まって大変よく仕上がっていました。上の回転灯の部分が LED で点滅するのですが、これは日本でも初めて車検を受けられたみたいです。これも地元の企業さんの協力が必要ですし、パトロールのモチベーションも上がります。

この方はまだ 35 歳で、同じ自治会の方ですが、4 年前のコロナ禍でマスクがすごく不足して高値で手に入らない時がありました。あの時に、うちの 150 世帯にまず 5 枚ずつを小分けして提供していただきました。皆さんから大変喜んでいただき、なかなかできないことに大変感動しています。



そして、七和地区社協のキャラクターにふさわしいものを小学校から公募しまして、20 作品に絞り、子どもが色鉛筆などで書いたものを PTA 会長の奥様にスマホでイメージ通りに作っていただき、その中から投票で決めて、この「ななおくん」に決まりました。この選考に参加して、この「ななおくん」を見た時にビビッときたんです。もし採用されなかったら、地区社協のキャラクターにしようと。早速、まち協の許可をいただき、すぐにステッカーを注文してボンネットに貼ってパトロールすると、子どもたちから「ななおくんだ！」と声をかけられ、やはりこのキャラクターという存在がかなり大きかったと思います。子どもから愛着が持たれ、パトロール中に手を振っていただいたり、「ありがとうございます」と声をかけていただくたびに、モチベーションが上がります。中学校、そして高校生にもご理解いただき、「ありがとうございます」「ご苦労さま」と言っていただいています。

桑名地域生活安全協会の方々と桑名市危機管理課、桑名警察署の方々と月に１回合同で街頭警戒活動をして、子どもたちの交通事故防止をしています。3台でパトロールするので目立ち、たくさんの方に知っていただくことができます。「ほとんどの方が七和地区をパトロールしている」「ここも七和？こんな住宅地の狭い道も？」「あ、そこの家は同級生だ、今一人で住んでいる」とか、1時間巡回しているとたくさんの情報が入ってきます。このように会話で地域とのコミュニケーションがとれますし、楽しいです。

そういえばこの前、グルメ通りにある焼肉屋さんに友達と行ったら、アルバイトの方が私の顔を知っていて、お話しすることができました。その時に「青パトやっているので参加してくれないか」とお願いしたんです。「いいんですか？むっちゃ興味がありました」と。大学生が社会貢献したことを就活に活かせるならぜひ参加してくださいと LINE を交換して、その後、青パトの実車証の講習を受けていただきました。余談ですが、生活安全協会の方が特殊詐欺の講演を大小関わらず年に 60 回ほどやられています。車を止めて特殊詐欺に注意喚起されており、私が三重県の警察の事件メールを見ていても、桑名市の特殊詐欺の件数がすごく少ないのです。これもやり続けているから結果がついてきているのではないかなと思っています。

青パトの構成員は今36名で、グループLINEを使い、メンバーの皆さんと情報を共有しています。七和地区社会福祉協議会の公式LINEアカウントも取得したいのですが、一斉に配信できるものの、料金を見ると結構するので、この辺もゆくゆく考えていかなければならないと感じています。

参加者の出欠確認は「調整さん」というアプリを使って、月ごとに作成してご都合のいい日に入力していただいています。参加者がいないときはLINEや電話でお願いしています。大変便利なツールですので、使ってみてはいかがかなと思っています。

課題

- 構成員
- 活動資金

課題は、構成員の方たちが70歳でもお仕事をされているので、平日の昼間にお休みいただくことは大変難しいです。強制的にではないので、時間の都合のいい日にご参加いただいているため、日頃から会う人に「青パトに参加してください」と私からお願いしています。チラシでも募集したのですが、やはり一本釣りというか、お互いの信頼関係からお願いするのが一番早いような気がします。

あとは活動資金です。今は1時間を週3回ぐらいですので、燃料費は桑名市の防犯活動助成金3万8千円と、地区社協からの1万円でなんとか賄うことができています。夜間パトロールなどを実施したいのですが、その費用は地区社協から捻出しないといけず、予算上大変難しいです。

いろいろ課題はありますが、三重県の2023年の出生数が1万人を切りました。今9,524人だそうです。少子高齢化になって、これから日本を支えていく人がだんだん減っていっています。そうすると、今までのサービスを受けることが大変困難な世の中になっていきます。そのためには、未来を担う子どもたちのために、今いる子どもたちを安全安心に世に送り出すために、皆さんと協力していかなくてはならないと思っております。

以上、ご清聴ありがとうございました。

■講　評

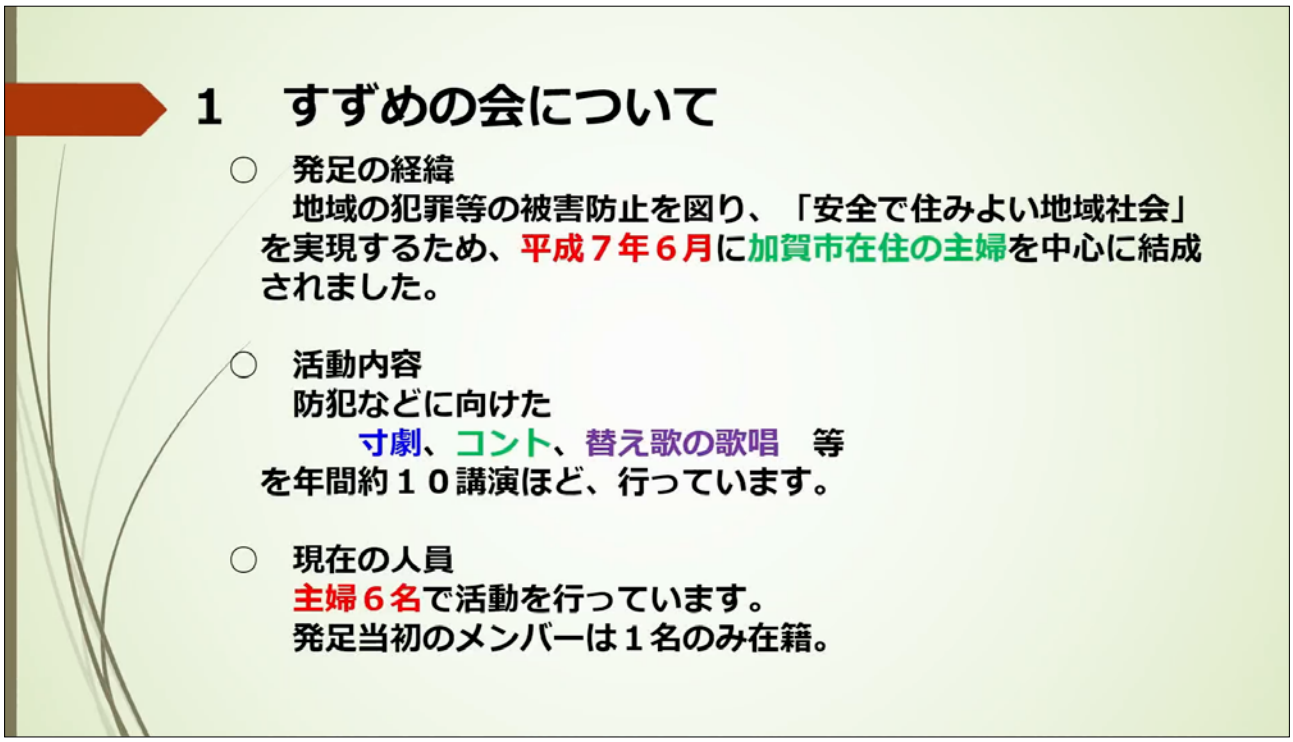
【北陸大学 山本 啓一 先生】

三重の七和地区の皆さん、BMW はすごいですね。維持費が大変そうですけど、やはりこれも企業の理解があってできることです。防犯ボランティアの皆さんが企業のサポートを得るというのは、財源的にも大事ですし、企業の経営者も、地域のその中小企業の方々は経営者が若いですから、そういった方々を味方にしていく。そのことによって、今度その防犯ボランティアの活動主体が、地域の方だけじゃなくて、企業も加わっていくというやり方にも広がるのかなという期待をしました。

またこの方々も、ずっと長らく活動されているわけですけれども、合同パトロールとか合同活動をやられていて、パトロールをする方々が他の団体とつながっていっているというのは、長く続く一つの秘訣なのかなというふうに思います。やはり、そういった混ざっていく、橋をかけていくという活動は、その団体が長く続いていく上で非常に大事なポイントだなと思いましたので、そういうところに着目させていただきました。

ボランティアグループすずめの会（石川県）

それでは早速ではございますが、パワーポイントの資料に基づいて、すずめの会の発足の経緯から紹介します。

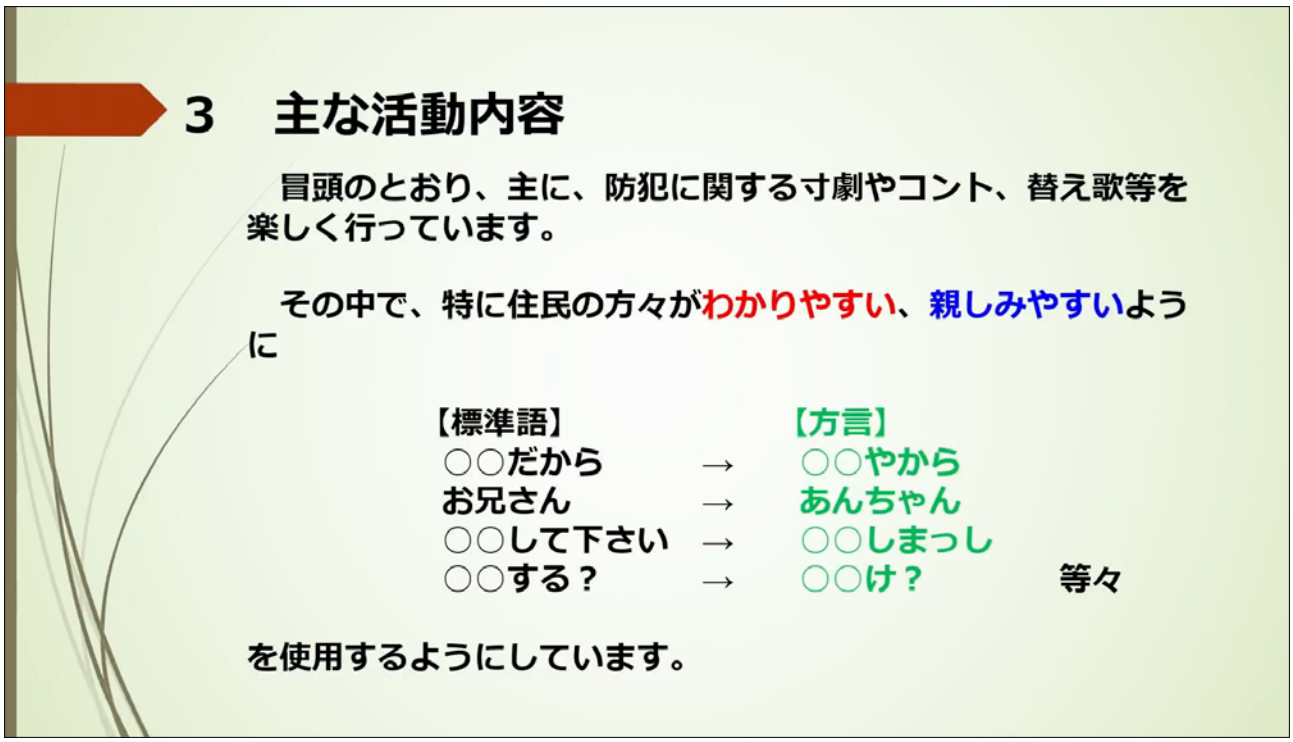


まず、すずめの会は、平成７年６月に石川県加賀市の安全で住みよい地域社会を実現するために、加賀市在住の、当時は家庭と勤めを両立させながらの８人の女性で結成しました。最初に演じたのが「舌切り雀」で、これを方言で演じましたので、会の名前も「すずめの会」となりました。当時は皆若くて、月に2、3回、または午前と午後と掛け持ちもしました。あれから30年、今は月１回くらいがちょうど良くなりました。

今のすずめの会のメンバーは６名であり、発足当時のメンバーは２年前に最高齢88歳で引退され、今は発足当時から残っているのは私一人になりました。

それでは次に、私たちの活動地域についての説明となります。

私たちは石川県の最南端に位置する加賀市で活動しています。加賀市は３カ所の温泉があり、約６万人が暮らす地域となっております。私たちの活動は、以前はこの石川県の、昨年地震があった能登の七尾市、または下は福井県の方まで、依頼があればどこでも駆けつけていました。皆さん余談ですけど、石川県にお越しの際は、ぜひ加賀市もご検討されてください。特に私たちの近所には片山津温泉があります。



次に私たちが実際に行っている防犯の寸劇や替え歌についての紹介をします。まず、私たちの行う寸劇は基本的に加賀市を中心とした石川県内で行っていますので、地域の方が分かりやすく、親しみやすいように方言を使うようにしております。ここにいくつか紹介してありますが、お兄さんのことを「あんちゃん」と言います。私の住む地域では、長男のことを尊敬と親しみを込めて「あんちゃん」と呼びます。今日行う寸劇や替え歌も実際に方言を使っております。

また、「早くしてください」「何々しなさい」という言葉は、私の住む町では「はよせんかいね」と言い、もっと強くなると「はよせーま！」となります。それから有名な話ですが、金沢の方言で「何々してください、何々しましょう」を「はやくしねぇね」と言います。皆さん聞いたことないですか？初めて聞いた人はびっくりしますよね、「早く死ね」なんて。でも、「早くしねぇね」というのが有名な加賀弁でございます。それがきつく言うと「はよしね！」と聞こえますが、これは丁寧な言葉なんです。方言ってそういう意味があるんですよね。

3　主な活動内容

活動時の服装等についても、住民の方々が親しみやすいように

- 主婦の服装
- 犯人の服装　　等々

を、会費での購入や地域からの寄贈等により準備しています。

では次に、主な活動内容として、寸劇や替え歌で臨場感を出すために、私たちはそれぞれの役割に応じた服装やメイクをするようにしております。その服装などは私たちの会費や地域からのいただきもので賄っております。あれから30年、今はメイクも必要なくなりました。素顔で十分です。

防犯活動アドバイザーへの委嘱

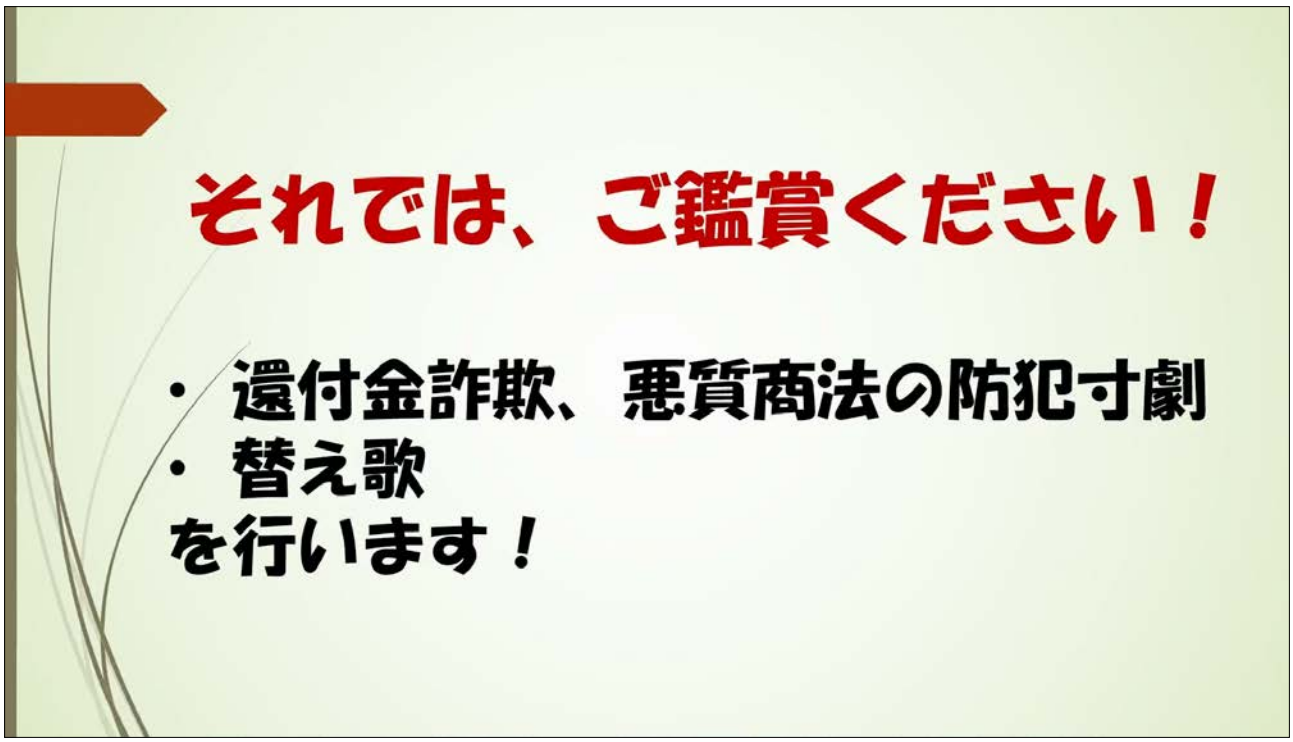
石川県警では、防犯ボランティア等に対する効果的な助言、支援等を目的として、防犯活動に関する知識、経験、技能を有する者、団体を防犯活動アドバイザーとして委嘱しています。

すずめの会は、

高齢者を対象とした悪質商法や振り込め詐欺等の被害防止のための防犯寸劇による防犯広報活動

が評価され、平成１７年から防犯活動アドバイザーとして委嘱されています。

こういった防犯活動を評価され、石川県の他の防犯ボランティアへの助言や支援などを目的とした「石川県防犯活動アドバイザー」として平成17年に委嘱を受けております。活動としては、平成9年に「タダより高いものはない」、平成11年「見ない、買わない、断る勇気」、平成17年「振り込め詐欺にご用心」、平成18年「広めよう防犯の輪」、平成22年「架空請求・カード詐欺にご用心」、平成26年には「広めよう防犯の輪」と題名を統一し、内容もその時々に合わせて演じています。今日で428回目になります。



冒頭で説明した通り、準備が整い次第、これから防犯の寸劇と替え歌を行おうと思います。私たちの活動のモットーは「笑いは健康のもと、笑いはおもらしのもと」です。そして一番大事なことは、「いくつになっても教育と教養」です。「教育」とは「今日、行く用事がある」、「教養」とは「今日、用事がある」ということです。そんな感じで皆様も今日ここにお集まりいただいていることと存じます。

立派な教育と教養だと思います。今から準備しますので、しばらくお待ちください。ぜひ皆さん、笑って学習してください。よろしくお願いします。

（寸劇披露）

お待たせしました。今から防犯寸劇「広めよう防犯の輪」を行いたいと思います。

（以下、還付金詐欺や点検商法、悪質な訪問販売などを題材とした、加賀弁を多用した寸劇が演じられる）

【寸劇の主な流れ】

1. おばあさんが一人でいるところに市役所職員を名乗る電話がかかってくる。
「還付金があるから ATM へ」と指示される。
2. おばあさんが ATM で戸惑っていると、親切な女性が現れ、それが詐欺であることを見抜き、被害を未然に防ぐ。

3. 別の日、訪問販売員が「腰痛に効く」という健康食品を高額で売りつけようとするが、これも詐欺まがいの商品であることが発覚する。
4. さらに、「古いお札は使えなくなるから新しいお札に交換する」と言ってタンス預金をだまし取ろうとする詐欺師が現れるが、これも家族や近所の人の助けで防ぐ。
5. 交通安全や見守りの重要性も盛り込まれ、最後は登場人物全員で警察に相談に行くことになる。

6.（替え歌披露）

ということで、今のお芝居を替え歌にしました。曲は「東京キッド」です。歌詞カードを見ながら、皆さんも一緒に歌ってください。（「東京キッド」のメロディに合わせ、詐欺に騙されないための注意点を盛り込んだ替え歌を披露）

以上で終わりです。ありがとうございました。

■講　評

【北陸大学 山本 啓一 先生】

いや、最後の寸劇はすごかったですね。私もいろいろ寸劇は見ましたけど、本職なのかな、と思うほどでした。温泉街なので、やはり芸事とか芸能の方がいらっしゃるのでしょうか。騙されたおばあちゃんがかわいそうだなと思いながら、思わず共感してしまいました。

すずめの会の皆さんは、まず女性の団体で防犯活動をされている団体が少ないという点で、非常に稀有な存在ですし、長く続けられていて、本当に良かったです。ああいった活動が他の地域にも広がっていくといいなと思います。加賀地域以外の出張での寸劇のお仕事もたくさんあるのでしょう。県内広く、また県外にも活動されていくといいと思いますし、若手の育成もできるといいのだろうなと思います。

例えば、小学生が弟子入りするとか、学校と連携をして。高齢者の皆さんは、子どもとか若者と相性がいいんですよね。ですので、少し下の世代よりも、ずっと下の世代とつながっていくと良いのかなと思います。よく防犯ボランティアの方々は小学生の見守り活動をされていますが、先ほどの寸劇は「見守られ活動」ですよね。小学生とか学校にいる間に、その子たちにボランティアを一緒にやってもらうのもいいのかなということも思いながら、後継者の育成というか、地域にそういった活動を続けていく仕組みができるといいなと思いました。